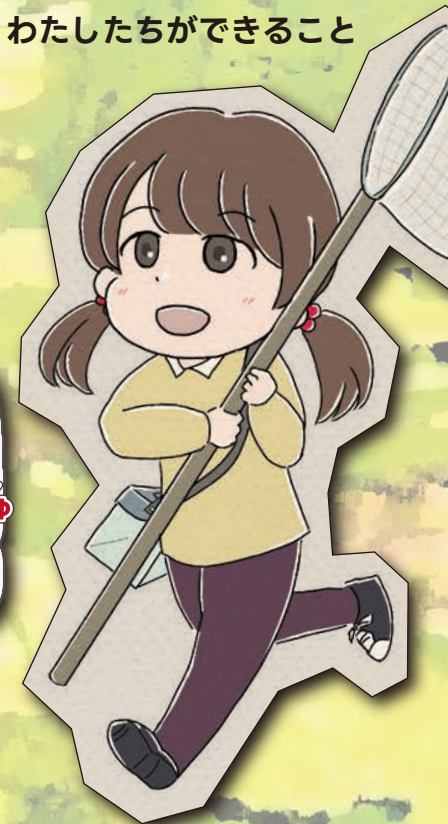


知ろう!
学ぼう!
考えよう!

東三河の自然を守るために
わたしたちができること

外
来
種



もくじ

「外来種」ってなんだろう？	1
どうやって日本に入ってきたの？	2
生態系＝生き物のつながり	3
外来種の何が問題なの？	4
外来種の例① ミシシippアカミミガメ	6
外来種の例② ヒガタアシ	8
外来種の例③ サギソウ（園芸種）	10
外来種って悪者なの？	12
わたしたちにできること	14
あなたは？（ワーク1）	16
外来種について調べてみよう！（ワーク2）	17
外来種にかかわる法律	18
東三河で見られる外来種〈植物編〉	20
東三河で見られる外来種〈動物編〉	22
参考文献・協力いただいた機関	24

いっしょに外来種について学ぶみなさん



このみさん
生きものや
自然が好き



のりひでさん
虫にくわしい
お兄さん



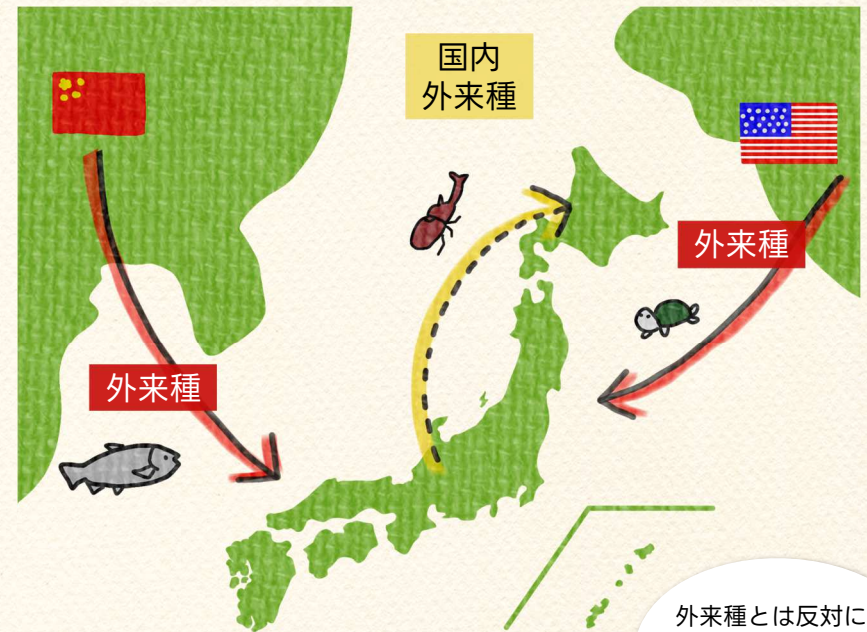
りょうへいさん
生きものは
少しがて



はるかさん
ほにゆるい
くわしいお姉さん

「外来種」ってなんだろう？

わたしたちの周りには、いろいろな生き物がくらしています。
その生き物の中には、人の手によってほかの土地から運ばれてきたものもいます。
そうした生き物を「**外来種**」といいます。



外来種と聞くと、外国から来た生き物のことを思い浮かべる人が多いでしょう。
しかし、それだけを指すわけではありません。
日本の中でも、他の土地から人の手で運ばれた生き物は外来種として扱われます。

外来種とは反対に、昔からその土地にいる生き物は「**在来種**」と呼ばれるよ



知ろう

どうやって日本に入ってきたの？

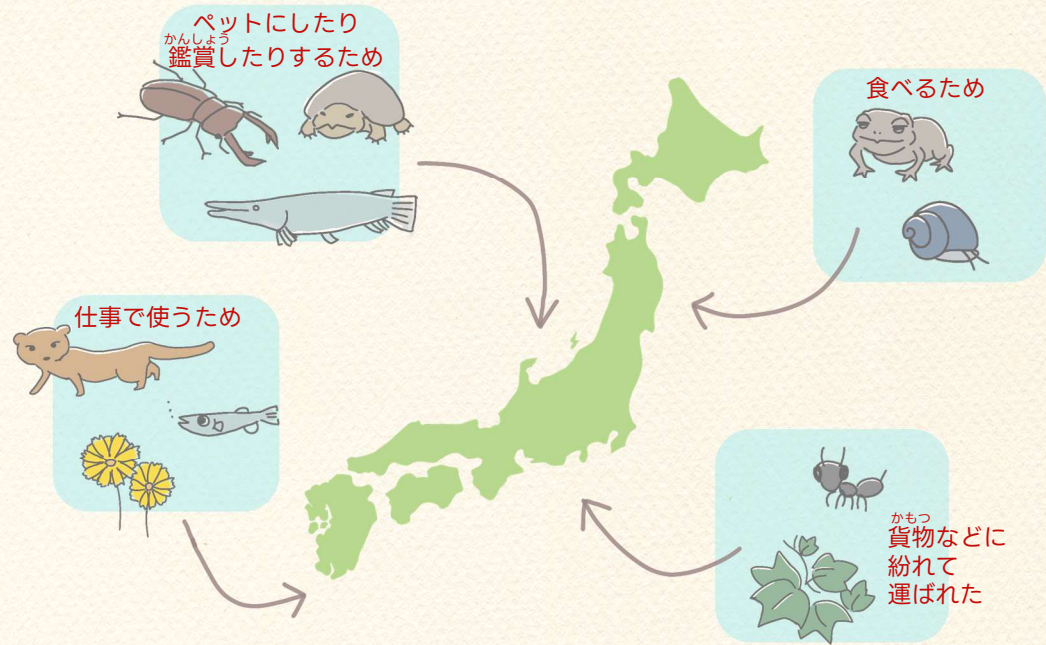
外来種は、海や風に乗って自分でやってきたわけではありません。

1ページに書いたように、人の手によってほかの土地から運ばれてきた生き物を外来種といいます。

外来種の多くは、「かわいいから」「役に立ちそうだから」という理由で、人の手によって持ち込まれました。ペットや作物として利用するためです。

しかし、育てられずに放したり、逃げ出したりして、自然の中で数を増やしてしまうことがあります。そのほか、船や荷物、車などに紛れて、気づかぬうちに運ばれてくることもあります。

こうして、人の暮らしと一しょに、世界中の生き物があちこちに広がってしまったのです。



▲日本へ入ってきた外来種と、その目的や理由の例

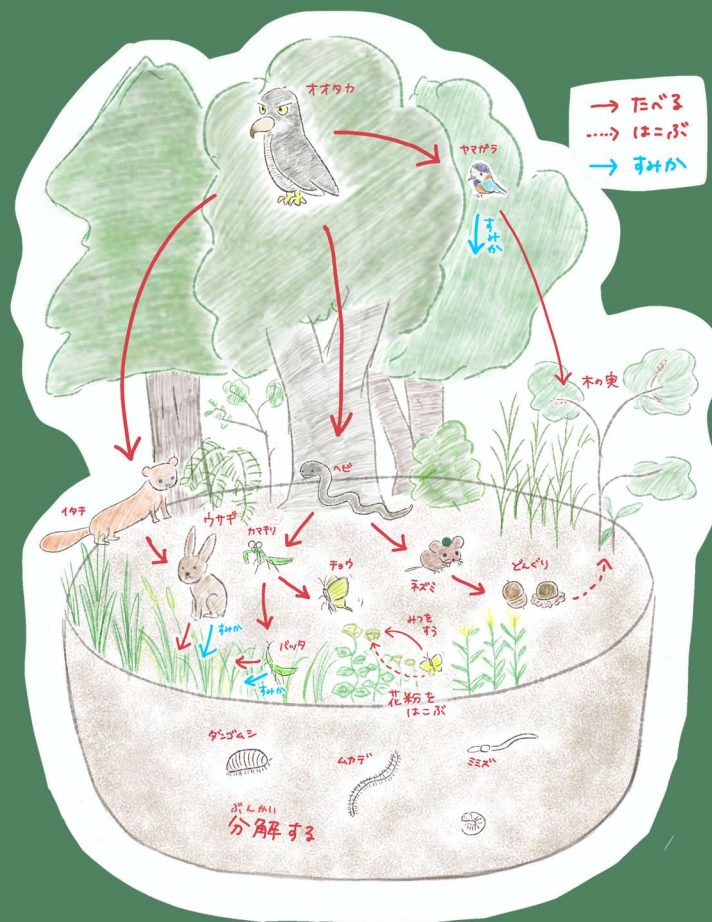
キーワード

生態系 = 生き物のつながり

生き物たちは、たがいに関わり合って生きています。草をバッタが食べ、バッタをカマキリが食べるように、生き物同士はつながっています。また、生き物は生き物同士だけでなく、草むらや川などの環境とも関わっています。このようなつながりのことを「生態系」といいます。生態系のバランスが上手にとれていると、わたしたちの暮らしにもいいことがあります。

たとえば、わたしたちが生きるためには酸素が必要です。植物は光合成を行い、酸素をつくってくれます。

生態系を守ることは、生き物を守るだけでなく、わたしたちの暮らしを守ることもつながります。



外来種の何が問題なの？

外来種は、もともとの地域にあった生態系のバランスを崩したり、わたしたちの生活に悪影響を与えたりすることがあります。

具体的にどんなことが起きるのか、見ていきましょう。

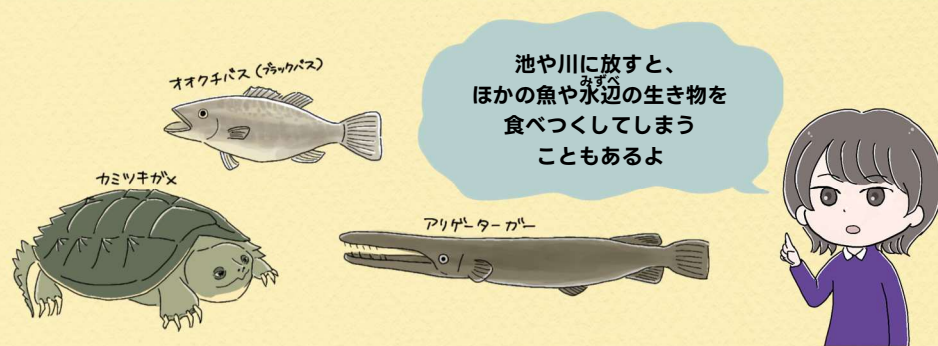
競争

エサやすみかをめぐって、生き物同士の争いが起きることで、食べるエサが同じだったり、すむ場所が似た環境だったりすると、この競争が起きてしまいます。



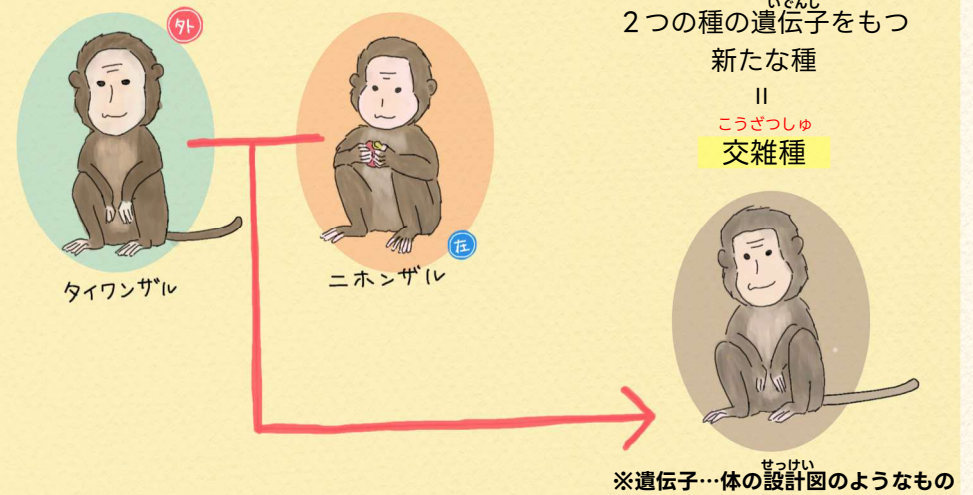
捕食

在来の動物や植物がえさとなり、外来種に食べられることです。



交雑

在来種と外来種のペアから新しい種が生まれること。純粋な在来種が減ってしまいます。



人への影響

かまれたり、刺されたりして人間がけがをすることがあります。畑を荒らしたり、作物を枯らすなど、産業への被害もあります。



外来種の例① ミシシippアカミミガメ

は虫類 / カメのなかま



目の後ろが赤色

水辺の
外来種

子どものときはみどり色

どんな生き物？

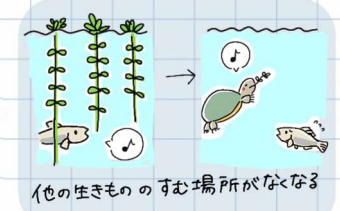
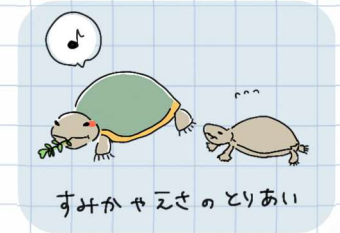
大きさ	こうらの大きさがオスは20cm、メスは28cm
食べるもの	魚、カエル、昆虫 <small>こんちゅう</small> 、水草、葉っぱなど
すんでいるところ	川、湖、池、水路、汽水域 <small>きすいいき</small> （川と海がつながる場所）
とくちょう	日光浴 <small>にっこうよく</small> が好き。 1回で20個 <small>たまご</small> くらいの卵を産む。
どこから来た	アメリカ合衆国 <small>がっしゅうこく</small>
どうやって来た	ペットとして飼うために日本に持ち込まれた。 「ミドリガメ」という名前 <small>なまえ</small> で売られていた。

どんな問題が起こっているの？

1.生態系への被害

ミシシippアカミミガメは植物から昆虫、魚までいろいろなものを食べます。そのため、在来種を捕食したり、同じエサを食べる在来種と競合きさうしたりします。特に、在来種とくのニホンイシガメとはエサや日光浴の場所を奪うばい合ってしまう。

また、水草が食べられすぎて、水草の中で生活する生き物がいなくなったり、水がにごったりします。



2.農業や水産業への被害

野生の植物だけではなく、農家さんが育てているレンコンや稲いねも食べられてしまいます。



3.人への被害

大人のミシシippアカミミガメは攻撃こうげき的で、かみついたりつめでひっかいたりするので、人がけがをしてしまうことがあります。



この生き物のためにできること

- 飼育しよくするときは、最後まで大切に育てましょう。
- 途中で川や池に放したり、逃がしたりしてはいけません。
- 飼えなくなったときは、責任せきにんを持って飼ってくれる人に譲るか、自治体じちたいや専門せんもんの団体だんたいに相談してみましよう。
- 外来種だからといって、いじめたりしてはいけません。

ヒガタアシ



植物 / イネ科



どんな生き物？

大きさ	高さが60cm~250cm
すんでいるところ	干潟、海岸近くの河口域など波が立たない場所
とくちょう	塩分濃度が高いところでも育つ。円の形に広がり、島ようになる。
どこから来た	北アメリカ東部
どうやって来た	葉のかけらや種などが、貨物船などにまぎれて運ばれてきたと考えられている。



どんな問題が起こっているの？

ヒガタアシが好む干潟とは、海の潮が引いた時（干潮時）に現れる砂や泥がたまった場所のことです。

干潟では、アサリやカニなど、砂や泥の中にたくさんの生き物がすんでいて、水をきれいにしてくれます。

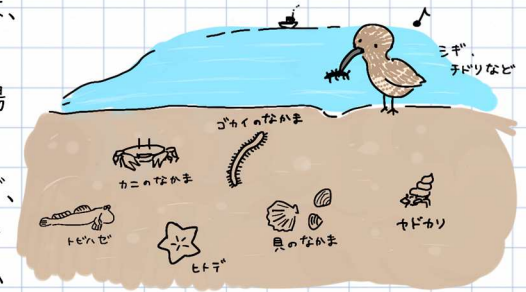
砂や泥にかくれた生き物をエサとして、シギやチドリなどの鳥が集まってきます。多くの生き物にとって、干潟は大切な環境です。

ヒガタアシは在来種のヨシとすむ場所が似ているため競争します。

また、ヒガタアシは増える力が強く、かたまりになって育つため、泥の地面が固まってしまう。

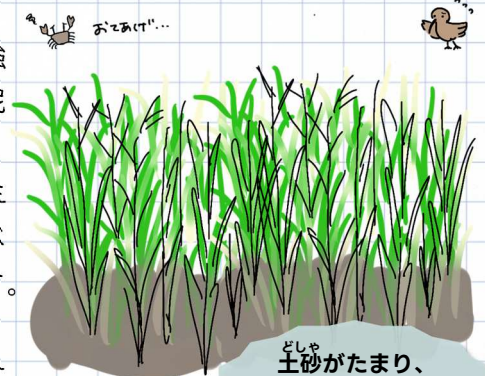
地面が固まると、砂や泥の中に生き物がすめなくなり、それらを食べにくる鳥も来なくなってしまいます。

アサリなどの二枚貝たちがいなくなることで水はにごっていき、アサリ漁や潮干狩りなど、干潟で行う水産業に悪影響があります。



砂や泥にかくれている生き物がいっぱい！

ヒガタアシがふえると.....



どしゃどしゃ土砂がたまり、カニや貝などの生き物がすめなくなる

こんな対策をしました

- 豊橋市では2011年10月からヒガタアシを取り除く作業を行いました。作業には地元の学校や、会社、市民など多くの人々が協力しました。
- 豊橋市梅田川河口域に入り込んだヒガタアシは、対策がうまくいったことで、2017年に無くなったと言われています。

外来種の例③ えんげいしゅ **サギソウ (園芸種)**

**国内
外来種**

植物 / ラン科



花の形が鳥のサギに似ている



サギソウの咲く
ながのやましづげん しんしろし
長ノ山湿原 (新城市)

どんな生き物？

大きさ	高さが20~30cm、花の大きさが3cm
すんでいるところ	野生のサギソウは湿地で育つ 園芸種のサギソウは湿地でも植木ばちでも育つ
とくちょう	種だけでなく地下でクローンをつくって増える 園芸種は野生のサギソウより花が大きい、乾燥に強い
どこから来た	ホームセンターやガーデニングショップ
どうやって来た	人が持ち込んで湿地に植えた

どんな問題が起こっているの？

新城市にある長ノ山湿原にはサギソウがたくさん咲いていました。

しかし、サギソウは美しくとても人気があるため、よくぬすまれてしまい、数が減ってしまいました。

そこで、地域の方はサギソウを増やすために、お店で買ってきたサギソウを長ノ山湿原に植えました。

ところが、お店で売られているサギソウは**園芸種**と呼ばれるものでした。

園芸種は野生のサギソウにとっては「**外来種**」です。

園芸種と野生のサギソウとが交雑種を作ることで、もともとあった純粋な野生のサギソウはさらに減ってしまいました。

このように、同じ種類の生き物でも、自然に育っていた場所ではないところから持ち込まれると、外来種として、さまざまな悪影響を与えることがあります。

野生のサギソウ
ぜつめつきぐしゅ
絶滅危惧種
・湿原などしめった場所で育つ

園芸種のサギソウ
・病気や乾燥に強い
・野生のサギソウより花が多い、大きい

ぜつめつきぐしゅ
なんだ！
木直えてふやしてあげよう！

園芸種のサギソウを不慮すると...

園芸種のサギソウ
ばかりふえてしまう...

つよいサギソウに負けてしまう...

里子生のサギソウが
へっこしてしまう

守るモリが
逆に減らして
しまうことに!!

ごめんなさい!!

こんな対策をしています

- 園芸種かどうかは、見た目だけでは区別が難しいため、専門家が遺伝子を調べて、どちらかを確かめています。
- 調べた結果、園芸種だとわかったものは、「東三河地域環境リーダー」という団体が取り除いています。
- この取り組みは、愛知県や新城市と相談しながら行っています。

外来種って悪者なの？

外来種の問題を考えると、「外来種＝悪い生き物」と思ってしまう人が多いかもしれません。

しかし、外来種は自分の意思で遠くまで旅をしてきたわけではありません。

外来種は、人間がペットやガーデニングのために持ち込んだり、気づかないまま荷物といっしょに運んだりしてやってきて、知らない土地で一生懸命に生きています。

外来種は、決して「悪い」生きものではありません。生き物に「良い」「悪い」はありません。

悪いのは人間が「外来種を持ちこんでしまったこと」、そして「外来種を運んできたのは人間なのに、外来種の問題を外来種のせいにして、無責任にほったらかすこと」なのです。



外来種が悪いわけではないんだね

生き物はただ、一生懸命生きてるだけなんだ



生き物を乱暴に扱うのはやめてね

どんなことをすればいいかな？



外来種にも、命がある

ただ、外来種が一生懸命に生きようとすることで、生態系や人間の暮らしに悪影響を与えることがあります。

その場合、もともとその土地にすんでいた在来種がいなくなり、生態系のバランスが崩れてしまいます。

このようなところでは、そこでしか生きられない在来種の居場所を守り、生態系のバランスを保つために、外来種がいなかったころの状態に戻さなければいけません。

そのとき、どうしても命を奪わないといけないことがあります。

しかし、外来種にも尊い命があります。

「外来種だから」という理由だけで、悪者扱いしたり、乱暴をしたりしてはいけません。

まず第一に、奪われる命が少しでも少なくなるように、外来種が広がることを事前に防ぐ心がけが重要です。

その上で、どうしても命を奪わないといけないときには、できるだけ苦痛を与えず、命が無駄にならない方法をとるなど、その命を尊重し、寄り添うことが大切です。

考えよう

わたしたちにできること

外来種が引き起こす問題はさまざまで、これらに対応するのは難しいことのように思えるかもしれません。

しかし、ひとりひとりの小さな行動が、自然を守る大きな力になります。

どれか1つでも、取り組んでみませんか？

1 生き物のことをよく知ろう



「この生き物はなんて名前かな？どこにすんでいるのかな？何を食べるのかな？」

生き物のことをよく知ることで、外でよく見る生き物が、実は外来種だったという発見があるかもしれません。

ふだんから生き物に関心をもって自然を見ていると「外来種が入ってきた」などの変化にも、早く気づくことができます。

もし「いつもとちがうな」と思ったら、博物館や市役所などに相談してみましょう。

2 持ち帰らない



外来種だと分かった生き物は、むやみに持ち帰らないようにしましょう。

写真に残したり、スケッチをしたりして楽しみましょう。

3 逃がさない、放さない

飼っている動物や育てている植物の苗・種は、絶対に外に放さないようにしましょう。

「せまいケージやプランターより、広い野外が幸せだろう」と思っているのは、わたしたち人間だけです。

外来種が自然の中で増えて、在来種や生態系に影響を与えるようになったら、外来種を取り除かなくては いけません。

在来種と、それらを押しよけて増えた外来種、そのどちらも不幸な思いをすることになります。

飼ったら最後まで、責任を持って育てましょう。



4 伝えよう

外来種とは何か、どんな問題が起こってしまうのか、そして「外来種そのものは悪者ではない」ことを周りのみんなに伝えましょう。

自分一人ですることは小さくても、たくさんの方がいれば大きな結果につながります。



生き物を大切に
する気持ちが大事だよ



まずは
できることから
はじめてみよう！

考えよう... あなたはどうする？

これまで学んだことをふりかえって、あなたが「できること」を考えてみましょう。

①外来種問題について、新しく知ったことを書いてみよう

②外来種問題について学んで、心に残ったことを書いてみよう

③これからの自分にできることを考えてみよう



ぼくは
もっと生き物
のことを
知りたいな！



さいごまで
大切に
飼うからね

やってみよう... 外来種について調べてみよう！

①生き物の名前

②もともとすんでいた国・地域

③どうやって日本に入ってきたか

④日本に来てどんな問題が起こっているか

もっとくわしく...

外来種にかかわる法律

ほうりつ

とくていがいらいせいぶつ

「特定外来生物」

外来種の一部には、増えすぎることによって自然のバランスをくずしたり、人の生活に悪影響を与えるものがあります。

そのため、日本では「**外来生物法**」という法律が作られています。

この法律は「人や自然に悪い影響をあたえるおそれのある外来種を、増やさないようにしよう」という決まりです。

その中でも特に注意が必要な生き物を「**特定外来生物**」とよんでいます。

これらを、許可を取らないで飼ったり、運んだり、野外に放したりしてはいけません。

■ 特定外来生物に指定されている植物



オオフサモ



オオキンケイギク

動物は143種類、
植物は19種類、
指定されているよ



ほかに
どんな生き物が
指定されて
いるかな？

■ 特定外来生物に指定されている動物



アライグマ



ブルーギル

■ 特に気をつけるべき「特定外来生物」

アカミミガメとアメリカザリガニは、
「**条件付特定外来生物**」に指定されています。

この2種は、競合や捕食によって、在来種に悪影響を与えてしまいます。

しかし、多くの人がペットとしてこの2種を飼育しています。

許可を取らずに飼育することを法律で禁止してしまうと、これまで飼っていた人たちが混乱したり、許可をもらうことを面倒に感じて池や川に放したりすると考えられたため、条件を付けました。

条件とは「外に放したり、ほかの場所へ運んだりすることは禁止するが、飼育は許可を取らずに行うことができる」というものです。



飼っている人は
大事にして
あげてね



■ 法律で禁止されていること

	特定外来生物	アカミミガメ アメリカザリガニ
飼う・育てる	×	○
つかまえる	その場で放すなら○	○
譲る	×	責任のある人に 無料で譲るなら○
売る	×	×
野外に放す	×	×

東三河で見られる外来種 〈植物編〉



特定外来生物

- ① 名前
- ② もともとすんでいた国・地域
- ③ 日本でどんな問題が起こっているか



- ① ボタンウキクサ
- ② 南アフリカ
- ③ イネなどの在来種との競合。水中に日光が届きにくくなる。



- ① シナダレスズメガヤ
- ② 北米
- ③ 在来種との競合。地面の土が積み上がる。



- ① モウソウチク
- ② 中国
- ③ 在来種やお茶や果物といった作物との競合。



- ① オオカワヂシャ
- ② ヨーロッパ、アジア北部
- ③ 在来種との競合。在来のカワヂシャとの交雑。



- ① ヤナギバルイラソウ
- ② 中南米
- ③ 在来種との競合。



- ① オオキンケイギク
- ② 北米
- ③ 在来種との競合。



- ① ヨシススキ
- ② インド
- ③ 大きく育つため、まわりに日光が届かず、ほかの植物が育ちにくい。



- ① オオフサモ
- ② 南アフリカ
- ③ 水辺の在来種との競合。水が汚れやすくなる。水の流れをじゃまする。



- ① アレチヌスビトハギ
- ② 北米
- ③ ほかの植物が育ちにくくなる(アレロパシー)。



- ① ミズヒマワリ
- ② 中央・南アメリカ
- ③ 在来種との競合。水路の水の流れをじゃまする。



- ① オオハンゴンソウ
- ② 北米
- ③ 在来種との競合。



- ① セイタカアワダチソウ
- ② 北米
- ③ ススキやヨシなどの在来種との競合。ほかの植物が育ちにくくなる。



- ① ハリエンジュ
- ② 北米
- ③ 在来種との競合。ほかの植物が育ちにくくなる。



- ① ナンキンハゼ
- ② 中国、台湾
- ③ かたまりになって育つため、ほかの植物が育ちにくい。



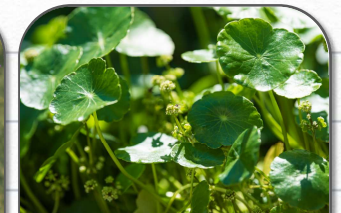
- ① ニワウルシ
- ② 中国、台湾
- ③ 在来種との競合。ほかの植物が育ちにくくなる。



- ① メリケントキンソウ
- ② 南米
- ③ 果実や茎のトゲによってけがをする。



- ① ポンポンアザミ
- ② 南米
- ③ 在来種との競合。増えやすいため、ほかの植物が育ちにくくなる。



- ① ウチワゼニクサ
- ② 北米
- ③ 水辺にかたまりになって育つため、ほかの植物が育ちにくい。

東三河で見られる外来種 〈動物編〉



特定外来生物

- ① 名前
- ② もともとすんでいた国・地域
- ③ 日本でどんな問題が起こっているか



- ① ハクビシン
- ② 中国、台湾、東南アジア
- ③ タヌキなどの在来種との競合。農作物を食べる。建物に侵入する。



- ① アライグマ
- ② 北米～中米
- ③ タヌキやキツネなど来種との競合。農作物を食べる。建物に侵入する。



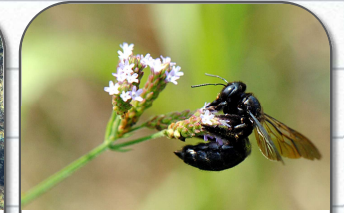
- ① ニートリア
- ② 南米
- ③ 水辺の植物や農作物の捕食。巣穴をほることでため池や川の堤防を破壊。



- ① タウナギ
- ② 南アジア、東南アジア
- ③ 田んぼのあぜに穴を掘ることで、田んぼの水が抜ける。



- ① コイ
- ② 東ヨーロッパ～東アジア
- ③ 在来のコイとの交雑。在来のコイとの競合。



- ① タイワンタケクマバチ
- ② 台湾、インド、中国南部
- ③ 竹の材料の質が悪くなる。付いているダニを在来のハチにうつす。



- ① カミツキガメ
- ② 北米～南米
- ③ 水中の生き物の捕食。在来種との競合。漁に使う網や人に噛みつく。



- ① ウシガエル
- ② 北米
- ③ 在来の昆虫やカエルなどの捕食。在来のカエルとの競合。



- ① ソウシチョウ
- ② 東アジア、東南アジア
- ③ 巣に肉食動物をおびきよせるため、在来の小鳥が襲われやすくなる。



- ① アカボシゴマダラ
- ② 東南アジア
- ③ オオムラサキやゴマダラチョウなどの在来種と競合。



- ① ヨコヅナサシガメ
- ② 中国、インドシナ半島、インド
- ③ 在来の昆虫の捕食。たまに人を刺す。



- ① アメリカザリガニ
- ② アメリカ南部
- ③ 在来種の捕食。在来のザリガニとの競合。ザリガニ特有の病気を運ぶ。



- ① オオクチバス
- ② 北米
- ③ 在来種との競合。在来種の捕食。



- ① ブルーギル
- ② 北米
- ③ 在来種の捕食。在来種との競合。



- ① カダヤシ
- ② ミシシッピ川流域、メキシコ北部
- ③ メダカとの競合。稚魚の捕食。



- ① セアカゴケグモ
- ② オーストラリア
- ③ 強い毒を持っている。かまれるととても危険。



- ① カワヒバリガイ
- ② 東～東南アジア
- ③ 岩や壁にたくさんくっついて、水を使う施設をつまらせる。



- ① スクミリングガイ
- ② 南米
- ③ イネ、レンコン、イグサなどの農作物を食べる。

もっとくわしく知りたいときは
《参考文献・協力いただいた機関》

- 日本の外来哺乳類 管理戦略と生態系保全 | 山田文雄・池田透・小倉剛 編 東京大学出版会 (2011年)
- ミシシippアカミミガメ防除マニュアル-名古屋市内の活動を事例として- | なごや生物多様性保全活動協議会 (2014年)
- 環境省 | 外来生物法・外来種対策関連ページ <https://www.env.go.jp/nature/intro/index.html>
- 国立環境研究所 | 侵入生物データベース <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/>
- 愛知県 環境局 自然環境課 | STOP! あいちの外来種 <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shizen/gairai-top.html>
- 愛知県 | 「あいち生物多様性戦略2030とわたしたちにできること」を作成しました <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shizen/bdpamph.html>
- 新城市 | 自然環境 <https://www.city.shinshiro.lg.jp/kurashi/kankyo/shizen/index.html>
- 豊川市 | 移入種を野に放さないでください! https://www.city.toyokawa.lg.jp/kurashi_tetsuzuki/kankyohozen/4/2/11965.html
- 蒲郡市 | 外来生物 (外来種) から生態系を守りましょう <https://www.city.gamagori.lg.jp/unit/kankyo/gairaisyu.html>
- 豊橋市 | 外来種駆除対策 <https://www.city.toyohashi.lg.jp/54163.htm>

■ 写真の提供・出典

瀧崎吉伸: ヒガタアシ (P08)、ミズヒマワリ (P21)

環境省HP: オオフサモ (P18)・オオキンケイギク (P18)・アライグマ (P18)・ブルーギル (P18・22)、シナダレスズメガヤ (P20)、オオハンゴンソウ (P21)・カタヤシ (P22)・カワヒバリガイ (P23) <https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html>



知ろう! 学ぼう! 考えよう! 外来種

東三河の自然を守るために、わたしたちができること



2026年6月発行

東三河県庁 (愛知県東三河総局県民環境部環境保全課)
〒440-8515 豊橋市八町通五丁目4番地
電話 0532-35-6113 (ダイヤルイン)

編集: グリーンフロント研究所株式会社
〒444-0071 岡崎市稲熊町山神戸7-12

監修: 瀧崎吉伸 (東三河生態系ネットワーク協議会 会長)
渡邊幹男 (愛知教育大学 教育学部 教授)
※五十音順・敬称略

